

会 議 録

会議名	令和３年度第２回東浦町社会教育委員会	
開催日時	令和３年１０月２７日（水） 午前１０時から午前１１時５０分まで	
開催場所	東浦町勤労福祉会館 会議室１	
出席者	委員	石原弘幸氏、久米さちへ氏、平井伸幸氏、二宮邦子氏、水野智美氏、高崎義幸氏、月原康雄氏、原田正治氏、梶山博史氏、橋本一男氏
	事務局	教育長、教育部長、生涯学習課長、図書館長、スポーツ課長、生涯学習係長、文化財係長、生涯学習指導員
欠席者	平松進吾氏、松下玲子氏、外山淳子氏	
議題	１ コロナ禍における各施設の利用状況について ２ 親子ふれあいイベントについて ３ その他	
傍聴者の数	なし	
審議内容		
◆あいさつ 教育長 委員長 新委員、新事務局の自己紹介 以降は委員長が議事を取り回す。 ◇委員長 次第に従い、議事を進める。議題１「コロナ禍における各施設の利用状況について」を議題として、事務局から説明を求める。 ◆事務局 ○生涯学習課の取組について配布資料に基づき説明。 ・文化センターは新型コロナワクチン接種会場のため、３月１６日より一般の利用を停止している。講座、教室については、中止のものもあったが、ほぼ日程、参加人数等を変更して他の施設で実施している。１１月１３日には、第３回「親子ふれあいイベント」を計画している。これからの事業である「こどものまち」や「ミュージックフェスティバル」は、会場が密になる心配があるので中止。 ・郷土資料館は、令和３年８月２７日から９月３０日まで緊急事態宣言発出のため閉館していた。入館者数、利用者数は、令和２年度と同等であるが、元年度に比べれば減っている。講座、企画展については、緊急事態宣言が発出されていた時期の講座は中止にしたり、定員を縮小しているが可能なものは延期したり		

するなど工夫して実施している。

○中央図書館の取組について配布資料に基づき説明。

- ・視聴覚コーナーの内装工事により6月14日～7月2日まで臨時休館していたため6月の入館者数は減っている。また、8月27日～9月30日まで愛知県に緊急事態宣言が発出されたため臨時休館したが、予約が入っている資料の貸し出しを行った。8月31日からは電話予約も実施した。
- ・「大人のためのDVD上映会」は中止になったが、他の事業は申込方法を変更したり定員を減らしたりして実施している。

○スポーツ課の取組について配布資料に基づき説明。

- ・8月27日からの緊急事態宣言発出の折は閉館していた。また、コロナ禍においては、全体として開館時間を前倒ししている。そのため、例年と比べて参加人数が減っている。去年はすべての事業を中止したが、今年度は、時期を変更して実施している。大人向け講座は、定員の半数しか申し込みがないので検討したい。
- ・体育館のLED工事を実施した。

◇委員長

事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。

◇委員

去年も生涯学習課や郷土資料館に質問させていただいたが、コロナ禍で定員が半数になっても講師への報酬はそのままである。その分は町からの持ち出しになるということであった。今年も同じという認識でいいか。

◆事務局

はい、同様です。

◇委員

来年度も定員を絞るなら受講者の負担を増やすことを考えてもいいのではないか。

◆事務局

コロナ禍であり、受講料を上げると生涯学習への参加者が減るのではないかという不安もある。来年度については、今のご意見を基に検討してみたい。

◇委員

資料は事前に読んできているので、各施設が手短かに報告し、また議長も質疑の時間を多くとっていただいていることに感謝している。

「コロナですべて講座や企画ができなくなった。参加者も減った」ということは理解できるが、今の状況を見ていると「コロナを理由にすることで、企画ができない。施設が使えない」となっているのではないかと心配している。文化センターはこの1年「ワクチン接種会場」として大変だったと思う。しかし、この1年で、ワクチン接種の流れなどの要領や施設の使用方法もわかりスムーズにできるようになったと思う。それなのに、現在も文化センターをワクチン接種会場として固定して、文化センターが有効活用できていない。職員がコロナを意識しすぎているのではないか。例えば、勤労福祉会館や地域に分散しているコミュニティセンターでもできるのではない

か。また、できるようにするにはどうしたらいいかを検討するべきではないか。文化センターは文化教養の中心であり、ここが使えないということは文化発展の停滞につながると考えられる。社会教育委員会で、この点について提案できればいいと考えている。

◇委員長

現在文化センターが使えない状況になっているが、今後どうしていくのか。第3回目の接種という話も聞かれる。その時も文化センターなのか。個別接種できるのか。その辺について、東浦町はどのように対処していくのか教えてほしい。

◆事務局

現在、第3回目のワクチン接種について、健康課が医師会と検討している。今のところ、今年度いっぱいにはワクチン接種会場として機能を残していくことになっているので、一般の使用はできない。来年度以降も継続の可能性はある。

◇委員

文化センターが利用できないとき、文化センターを利用したい団体への場づくりを考えていくのが社会教育委員としての課題ではないか。

◆事務局

文化センターで企画している事業については、勤労福祉会館やコミュニティセンターをはじめ様々な施設で実施している。文化協会の事業についても縮小して、他の施設を利用して実施してもらえるように考えていきたい。

◇委員長

今年度いっぱいには文化センターを利用できないということですね。1月に行っている文化協会の新春文化展はどこでやれるのか。会場の確保はできているのか。生涯学習課で検討していくことが必要ではないか。発表の場がないとモチベーションが下がるのではないか。委員のみなさんの中でも、こういう場所がある、こういう企画ができるということがあったら教えてほしい。

◇委員

郷土資料館、このはな館、勤労福祉会館、図書館で展示できるのではないかと思います。特に、郷土資料館や図書館は東浦町の文化の拠点と考えおり、展示会などで使えるのではないかと文化協会に発信していくこともできるのではないかと。

◆事務局

ある施設を利用してできることをやるということは大切なことである。展示会ができないということで、今まで活動されていた方々が展示会に向けて作品を作っていくというモチベーションが上がらないというお話は聞いている。できるということを早めに文化協会の人たちと話しながら進めていけば、それに向けて準備が始まるということもあるので、文化協会の人と施設面などで話し合いを進めていきたい。今、生涯学習の拠点である文化センターが使えないということは残念なことであるが、教育委員会としてはコロナ対策本部に、使用できるならすぐにでも使用したいとお願いして

いる。ただ、今3回目の接種に向けて医師会と調整している段階であり、集団接種か個別接種かが決まっていない。ワクチンの供給についても国から方向性が示されていないので、なかなか決められない状態である。そういう意味で、文化センターが利用できるかどうか分からない。今日お話を聞いて、教育委員会関係の施設に限らず他の施設も含めて使えるか確認しながら、みなさんの生涯学習活動が進めていけるように準備していきたい。

◇委員長

コロナでここが使えないあそこが使えないではなくて、逆にここなら使えるというように場所を探していただけるとありがたい。

議題1に関するさらなる意見がないことを確認する。

議題2「親子ふれあいイベントについて」を議題として、事務局から説明を求める。

◆事務局

○親子ふれあいイベントの取組について配布資料に基づき説明。

- ・第1回～第3回の概要説明（チェックポイント、ボーナスポイント、ゲームスポット）
- ・第3回目でのこどもスタッフ募集

◇委員長

事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。

親子ふれあいイベントについて、2回の実施状況と3回目に向けての説明であった。東浦町では、子ども向けの講座として「こどものまち」があるが、コロナ禍でできなくなった。そこで、小中学生への生涯学習課からの講座を検討して、屋外の企画として考えられたと思う。2回目までの改善点はあるが、子どもたちの感想があると良かった。子どもスタッフの募集は本当にいいことだと思ったが、希望者が0は残念だった。今後実施していくならばピーアールの方法も考えてほしい。

◇委員

第3回の参加チームは40チームか。

◆事務局

40チーム募集したけれども、実際は24チームでした。

◇委員

コロナ禍で密を防ぐという新しい事業で、こういうことはどんどんやってほしい。参加の申し込みやスタッフ希望の申し込みも紙を文化センターに持って行かなければいけない。例えば、インターネットやメールを利用して、紙以外の申し込みができればいいと思う。土日に文化センターに入ろうとしたら、コロナワクチンの接種の方で行列ができていて入れなかった経験がある。今後は、紙以外の申し込み方法も検討してほしい。

◆事務局

この企画については学校の協力を得てお知らせなどはしているが、申し込みについ

てはインターネットなどの利用について今後検討したい。

◇委員長

申し込み用紙はQRコードでダウンロードできますか。

◆事務局

できます。

◇委員長

この企画は新しい試みでいいです。今後もできるだけアピールして行ってほしい。また、申し込みもスムーズにできるように検討して行ってほしい。

議題2に関するさらなる意見がないことを確認する。

議題3「その他」については、昨年度第3回の社会教育委員会で、生涯学習への要望や日頃の思いを話し合った。それから7ヶ月が過ぎ、現在の皆さんの日常生活の中で東浦町の社会教育の諸問題や生涯学習に関するご意見がさらに出てきたのではないと思う。そこで、今から意見交換の場としたい。忌憚のないご意見を聞かせてほしい。

◇委員

社会教育委員とは何をするのかということを考えている。6月に、県社連総会の後の講演会の資料「負けるもんか！社会教育のソコヂカラ！！」を読ませていただいた。この中で、「社会教育委員は、町の課題を考えて、意見を述べ、具現化するのが使命である」と説明されている。しかし、私たちは大体説明を聞くだけで終わっていた。自分は、社会教育委員会のあり方としては、説明を聞くのではなく、われわれの意見を聞いていただくのが80%と考えている。そういう意味では、今日は方向転換していただいてありがたい。このスタイルを初めから行っていただくと、社会教育委員が日頃考えている課題や意見を行政の方に聞いていただけると思う。そのためには、第1回目の社会教育委員会で、社会教育委員の役目などを伝えてほしい。

また、資料の中で「社会教育の底力を発揮しろ」といわれている。自分は、まだ社会教育委員として何をしたらいいかわかっていない。例えば、行政の側で考えている問題について、住民の声を聞かせてほしい、具体化する意見を出してほしいなどの課題を出していただければ、この会で考えることができる。それらを参考に行政に生かしていただくような流れがあれば、社会教育委員会として有益であると思う。

◇委員長

この会では、日頃社会教育委員さんが考えていることを出していただいて、それを基に、行政の方で考えていただけるような会も必要であろうと昨年度第3回から皆さんのご意見を伺うようにしている。他のご意見を聞かせていただきたい。

◇委員

社会教育委員になって8年目になるが、いまだに何ができているのか疑問である。自分たち委員から問題提起していかなければいけないと思っている。2、3年前に「ジュニアリーダーのあり方」について、小委員会を作って自主的に研究したことがある。そういう研究は必要だと思ったが、実際に行ってみると、仕事も持っているので時間

を作るのが大変だった。活動の難しさを実感した。

◇委員

要望です。夏に、スポーツ課に対して社会教育委員として伝えてほしいと言われた。それは、施設の利用について、職員で管理の方法を徹底・共有をしてほしいということである。

◆事務局

この件は、ふれあいセンターの夏場の利用についての件である。フロアでインディアカとバドミントンが利用していて、インディアカに参加している人は冷房がほしい。バドミントンに参加している人は風があると活動しにくいということであった。フロア使用の統一的なルールはなかったが、熱中症対策を一番に考えて、機器で計測して冷房を入れるかどうか判断することとした。また、職員に周知徹底するようにした。

◇委員

社会教育委員は何をするのか難しい。また、仕事をしている方もいらっしゃるのに集まるのも難しい。年に2, 3回ということで参加させてもらっているが、「ジュニアリーダー」について研究していた時のように、毎月出席したり調査したりすることは難しかった。

社会教育委員会の中で、行政の方の話を聞かせてもらい、いち住民としてまた子どもを育てる立場として意見を吸い上げていただければありがたいと思って参加している。

◇委員

自分は直接参加できなかったが、「ジュニアリーダー」の研究については東浦町が小委員会を設けてずいぶん熱心に取り組んでいたと考えていた。地域に対する思いがあり、造詣が深い人がリーダーになって、そういうような活動に取り組んでいただければいいのではと思っている。

◇委員

社会教育委員会に出席すると地元の方に話したら、「施設利用の申し込みをする際、職員には伝えてあったのに管理人さんには伝わっていなかった」ということをスポーツ課に伝えてほしいと要望された。これからは、職員と管理人さんとの連絡を密にしてほしい。

委員になって、まだ5ヶ月である。社会教育の活動については、今後勉強していきたい。

◇委員長

コミュニティセンターと社会教育とは深いつながりがある。コミュニティセンターの活動でいろいろな問題が出てきたら、社会教育委員会でも伝えてほしい。

◇委員

東浦町都市計画マスタープランが昨年作られ、施行されていると思う。「町民がこういう町を作ろう」が基本だったと思う。社会教育に対して、行政の意思が余り強く

出ていないと考える。例えば、「新春文化展」は文化協会にお願いするだけという形である。しかし、基本計画を意識して、行政の方針を要望していてもいいのではないか。「65歳の成人式」や「老人会の活動」についても同様である。

◇委員

社会教育委員会の活動や事業の大きな課題は周知であると考えている。また、新規の方への周知やリピーターへの周知という二つの考え方がある。小中学校では、教育委員会から一斉メール配信が行われている。そこで、新規の方には、「広報ひがしうら」やチラシで宣伝する。リピーターを作るには、スポーツ課や文化センターの事業に参加してくれた人にアドレス登録をお願いして、他の事業などの紹介をメール配信する仕組みを取り入れたらどうか。

◇委員

親子ふれあいイベントに非常に関心がある。1回目、2回目と参加者が増えてきていたが、3回目に減ったのが残念である。コロナ禍の中で、子どもたちが参加できる一番のイベントだと思う。今回、自分が住んでいる地域で行われるのに参加者が減ったのは残念である。宣伝が足りなかったのかなあと思っている。是非これからのことを考えて企画を練ってもらいたい。

◇委員

他市町から東浦町の小中学校のトイレは進んでいるといわれた。これからも快適なトイレにしていってほしい。子どもたちから、来年度は小学校の部活動がなくなると聞くが、本当なのか教えていただきたい。

◆事務局

小学校の部活動は来年度から行わないということになっている。現在、文部科学省の方から「中学校の部活動が中心になるが、土、日の部活動を地域部活動にする」という考え方が入ってきている。これは、土、日曜日の学校の部活動をなくして、その部分を地域の方たち(希望により教員も可)に指導してもらうという考え方である。令和5年度から段階的に進めていく予定であるが、具体的なことは国から示されていない。その中で、小学生も土、日曜日に地域で活動ができるようにしていくということである。東浦町では、スポーツ課で「指導者養成講座」に取り組んでいる。その中で、指導者として登録されている方が100人を超えている。そういう方たちにアンケートをとって、地域で教えていただける人を調べていく。また、スポーツに限らず、文化面においても、学校で教えてくださる方を地域で探していきたい。来年度、コミュニティスクールを全校で始める。「地域の子どもたちを地域で育てる」方向になればいいと考えているので、徐々に進めていきたい。

◇委員長

いろいろなご意見を伺った。特に、社会教育委員として何ができるのか、社会教育委員とは何をするものかなど迷いや思いは、何年経ってもおもしろくないかなと思う。それに対する答えはなかなか出てこないが、社会教育委員の皆さんが集まって常日頃考えていることを出し合うことはいいことだと思っている。また、皆さんから出てきたご意見の中で、今後私たち自身に取り上げて研究していかなければならないものがでてきたら小委員会なども考えていいと思う。ただ、前回の反省は活かしてい

たい。老人会の問題や子ども会の問題など、生涯学習に関する問題点もたくさんあるので、これからも意見をいただきたい。

◇委員

図書館、郷土資料館、学校で、十分連携をとって事業などを進めていってほしい。

◇委員長

中央図書館については業務委託の問題もあり連携が難しいかもしれないが、皆様方の貴重なご意見をいただきました。

議題３に関するさらなる意見がないことを確認して、議事の終了を宣告。

◆事務局

次回の委員会について連絡。次回は、３月に予定。日時は後日連絡。

備 考

なし